

MACF 新年礼拝

2023 年 1 月 1 日

新年おめでとうございます。

今年も神様の愛と恵みの中に包まれながら、しっかり 1 日 1 日歩んで行きたいと思います。一緒に進んでいきましょう。

今年の 1 月 1 日に私が、心に留めている聖句はふたつ。

箴言 1 章 7 節

主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る。

と

出エジプト記 3 章 5 節

神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」

\* \*

1 モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。2 そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。3 モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

4 主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、5 神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」6 神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

\* \* \* \*

1) 「主を恐れつつ生きる」という生き方

ひとことでいえば「礼拝者の心で生きる」と言えると思います。MACF とは「ミッション・エイド・クリスチャン・フェロシップ」の略ですが、これは二つの要素をつなげて名前にしています。「ミッション・エイド」と「クリスチャン・フェロシップ」です。

ミッション・エイドというのは「神様が託してくださったミッション(使命)を支援するという姿勢を育てることを意味しています。

基本的には神様が人間に託している根源的なミッションは「いのちあるものをケアする」というものです。

創世記 1 章には

27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

とあります。「支配する」とありますが、これは神様の心でケアすると考えるべき内容だと思います。

私たちの役割は、形は違いますが、それぞれの土台は「命あるものをケアする」というものです。

そして、そのことのために重要な土台は「主を畏れる心を持つ」とこにあります。

要するに「神様が何を感じ、何を考えているのかを、しっかり心に止めながら、それを反映させながら決断し、行動し、ケアするということになります。

その際、主を畏れる心が欠如すると、私たちの勝手な主観がモノを言い出すのです。

神様の思いよりも、人間的な感情、コスパ、タイパなどがモノを言い出して、「そんなの面倒だ」

「あなたなどいなくても良い」「生きるより死んでくれた方がいい」とか、そういう心が前面に出てくる可能性が強くなってきます。

それゆえ、「主を畏れる心」をしっかり確保することによって使命をはたしつつ生きられるようになってくると思うのです。箴言の著者は、それが知恵の始まりだと教えています。主を礼拝する心です。

礼拝を楽しむ心、大切に作る心です。

## 2)「足から履き物を脱ぎなさい」という現代的意味

もう一つの箇所はモーセの新しい使命への出発に際しての出来事ですが、神様がモーセに現れて、モーセに向かって「ここは聖なる地だから足から履き物を脱ぎなさい」と語ります。

これは、礼拝の心を育てる上で、もしかすると最も重要な出来事かもしれないと感じています。

「履き物をぬぐ」という行為は「汚れたモノを脱ぎ捨てて」「降参する」「武器を放棄する」「素のままですこに立つ」という意味が含まれていると思います。

つまり、神に出会い、いわば礼拝に際して「履き物を脱ぐ作業」が求められているわけです。

自分が汚れている存在であることを認め、それを脱ぎ捨てて神の前に立ち、神の憐みに触れるわけです。

昨年末、カウンセラーの永原先生と対談させていただいた時、その前の月に私が五島列島に行った話題になり写真の中にあつた教会の中に「天主堂」という名前の付いた教会堂があることにとっても興味を持ったということを聞きました。

天主とは「天の神」であり「創造主」のことです。そのお方がおられる聖堂、それが天主堂の意味でしょう。

私は教会、教会堂は、キリスト者が集まる会場であり、それ以上でもそれ以下でもないずっと考えてきました。

でも、それは半分は正しく、半分は間違っていたことに気づかされました。

クリスチャンが集まるところにイエス様がいてくださいますから、それだけで聖なる会合となり、教会となります。それらの人たちが集まる場所が教会です。それがプレハブだろうか、民家だろうが、そこには聖なる集合体の場所が存在します。

でも、だんだん形が「コンサート付き講演会」のような形の礼拝が演出されてきてから

ここが聖なる場所だという感覚が失われて、コンサート会場が気づいたら教会だったというイメージが大きくなりつつあるのが現状のような気がします。

ここは、大きくても小さくても、みすぼらしくても豪華でも「聖なる神と出会う場所」

「履き物を脱いでかきこまる場所」という意識をどこかでしっかり確立しないと、恵まれたとかおもしろかったというだけの「いわば例会」に成り下がってしまう可能性をかんじたのです。

神様が望まれるのは豪勢な教会堂を無理してでも建てろということではないと思います。

でも、まずは心の中に礼拝においては「履き物を脱いで静かに座り、心を整える」という意識が必須であり、また、それを感じさせる「建物」「雰囲気」「構成」「お花」「講壇」などがとても重要な意味を持つのかもしないと感じています。

MACF はそもそも借り物の場所でしか礼拝をしてきませんでしたし、これからもそうだと思いますが、私たちが集まるところがどこだとしても「聖なる空間」が意識できるような「静かさ」「挨拶」「態度」「姿勢」などがまずは、個人個人のレベルで再確認される必要があるのだと思います。

クリスチャン・フェロシップの意味は「クリスチャンの交わり」「礼拝」を意味しています。

それは態度としては「履き物を脱ぐ」という作業から始まるのだと思います。

お互いに対して履き物を脱ぐというのは「挨拶を交わす」ということから始まると思います。礼拝に際して「神様に挨拶を、そして隣の人に挨拶を」という意識と姿勢ができた時、靴を脱ぐという作業がだんだん身についてくるのかもしれません。

カトリック教会の中ではミサの中で互いに「主の平和」という挨拶が交わされます。

とても良い習慣だと思います。

私たちは礼拝会場に入る時「イエス様感謝します」と入場し、他の人とは「主の平和がありますように」「いてくれてありがとうございます」という挨拶ができればいいなと思います。

実はそれだけで礼拝の準備がずいぶん整えられます。

皆さんと直接お会いした時、礼拝の入り口で履き物を脱ぐつもりで、「神様感謝します」という挨拶と「いてくれてありがとうございます」という挨拶が実行できたらよいなと思っています。礼拝者としての成長を期待しながら前に向かっていきましょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

\* \* \*

「MACF 新年礼拝映像 2023 年 1 月 1 日」はこちらです。

<https://youtu.be/CIWibelYbP4>